

令和2年度病害虫発生予察指導情報

対象病害虫：イネ・トビイロウンカ（No. 2）

令和2年8月11日
鳥取県病害虫防除所

1 情報の内容

8月11日発表の令和2年度病害虫発生予察注意報第3号において、トビイロウンカの防除の徹底を呼びかけています。今後の本種の発生は、移植期～出穂前後の防除状況によっても大きく異なるため、下記を参考にして適切な防除を行って下さい。

2 発生状況

(1) 8月3～11日の調査結果

ア ウンカ類調査定点及び巡回調査定点（東部11地点、中部8地点、西部10地点）における平均発生ほ場率は53.3%であり、令和元年および平成10年の同時期より高い。

イ 県内全域にトビイロウンカが飛来していると推測されるが、発生には地域間差があり、中部に比較して東部及び西部で発生が多い傾向にある。

ウ 8月11日現在、ほ場での発生の主体は成虫～中老年である。

(2) 今後の発生予想

ア 8月11日現在、要防除水準を超えているほ場は確認されなかったが、増殖率の高い短翅成虫が県内全域で確認されていること、本種の増殖に好適な気象条件が今後も継続することから、当面の間、発生量は増加し続けると予想される。

イ 現在、防除対象である第2～3世代幼虫が順次発生しており、大部分のほ場の防除時期は8月下旬以降と予想される。

3 防除上注意すべき事項

(1) 今後の本種の発生は、移植期～出穂前後の防除状況によっても大きく異なり、特に育苗箱施用剤の影響が大きい。以下に、育苗箱施用剤毎の防除の考え方を示す。

ア すべてのほ場共通の対策

出穂前後の防除を徹底する。なお、本年は斑点米カメムシ類の注意報も発表されていることから、穂揃い期防除は必ず行う。

イ トリフルメゾピリム剤を含有する育苗箱施用剤（スクラム箱粒剤等）

(ア) 10月初めくらいまでに収穫予定のほ場

○ウンカ類に対して高い防除効果と長い残効性を示すことから、当面の間、トビイロウンカを対象とした追加防除の必要性は低いと考えられる。

○収穫間際にトビイロウンカの発生量が急増した場合は、収穫適期の範囲内で早めに収穫する。

(イ) 収穫予定が10月中旬以降のほ場

9月中旬ごろからトビイロウンカの密度が増加するおそれがあるので、ほ場の観察を十分にを行い、要防除水準を超えた場合は直ちに防除を行う。

ウ ピメトロジン剤を含有する育苗箱施用剤（ビルダーフェルテラチェス粒剤等）

(ア) 極早生品種及び早生品種（ひとめぼれ、コシヒカリ等）

○当面の間、トビイロウンカを対象とした追加防除の必要性は低いと考えられる。

○収穫間際にトビイロウンカの発生量が急増した場合は、収穫適期の範囲内で早めに収穫する。

(イ) 中生品種（きぬむすめ）等、収穫予定が9月下旬以降のほ場

○9月中旬ごろからトビイロウンカの密度が増加するおそれがあるので、ほ場の観察を十分に行い、要防除水準を超えた場合は直ちに防除を行う。

○収穫間際にトビイロウンカの発生量が急増した場合は、収穫適期の範囲内で早めに収穫する。

エ 上記以外の育苗箱施用剤

(ア) 極早生品種及び早生品種（ひとめぼれ、コシヒカリ等）

○8月下旬頃からほ場の観察を十分に行い、要防除水準を超えた場合は粒剤、粉剤、水和剤等で防除を行う。又、坪枯れの前兆となる坪状のイネの黄化、小規模の坪枯れのいずれかを確認した場合は、粉剤、水和剤で直ちに防除を行う。

○粉剤、水和剤等の散布が困難な場合は、8月下旬（8月22日～8月31日くらい）にスタークル粒剤を予防的に散布する。

(イ) 中生品種（きぬむすめ）等、収穫予定が9月下旬以降のほ場

○出穂前後の防除を徹底する。

○穂揃い期の防除後（散布1週間後くらいから）もほ場の観察を十分に行い、要防除水準を超えた場合は粒剤、粉剤、水和剤等で防除を行う。又、坪枯れの前兆となる坪状のイネの黄化、小規模の坪枯れのいずれかを確認した場合は、粉剤、水和剤で直ちに防除を行う。

○粉剤、水和剤等の散布が困難な場合は、穂揃い期の防除の7～10日後頃を目標にスタークル粒剤を予防的に散布する。

(2) 各時期の各時期の要防除水準は次のとおりである。

※8月中旬までの要防除水準：成幼虫数1頭/株

8月下旬～9月の要防除水準：成幼虫数10頭/株

(3) 本年は6月中旬～7月下旬にかけて複数回の飛来があり、今後、成虫～幼虫が混在して発生すると予想される。そのため、防除後も発生状況には十分注意する。

(4) トビイロウンカは同一ほ場でも発生に偏りがあるが、ほ場周辺より内部での発生が多い傾向にあるので、ほ場を広く観察することに努める。なお、坪枯れの前兆となる坪状のイネの黄化又は小規模の坪枯れの早期発見も有効な状況把握手段の1つである。

【中～平坦地】

予測開始日	8月						9月					
	1半旬	2半旬	3半旬	4半旬	5半旬	6半旬	1半旬	2半旬	3半旬	4半旬	5半旬	6半旬
6月15日	幼虫	成虫/卵	幼虫			成虫/卵			幼虫			
6月25日	幼虫		成虫/卵		幼虫		成虫/卵			幼虫		
7月10日	成虫/卵		幼虫			成虫/卵		幼虫				成虫
7月15日	成虫/卵		幼虫			成虫/卵		幼虫				
7月25日	幼虫		成虫/卵		幼虫			成虫/卵			幼虫	

【山間地】

予測開始日	8月						9月						
	1半旬	2半旬	3半旬	4半旬	5半旬	6半旬	1半旬	2半旬	3半旬	4半旬	5半旬	6半旬	
6月15日	幼虫		成虫/卵		幼虫			成虫/卵			幼虫		
6月25日	幼虫			成虫/卵		幼虫			成虫/卵				
7月10日	成虫/卵			幼虫			成虫/卵			幼虫			
7月15日	幼虫	成虫/卵		幼虫			成虫/卵			幼虫			
7月25日	幼虫			成虫/卵		幼虫			成虫/卵				

図1 有効積算温度によって予測されたトビイロウンカ各態の発生時期

注1) 予測開始日はウンカ類飛来予測システム及び予察灯への誘殺状況から推察した主な飛来日を示す。

注2) 8月11日以降の気温は気象平年値を利用した。

注3) 網掛け部分は防除対象の幼虫発生時期を表す。